



J. FRONT RETAILING

2023年11月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
 TEL 03-6865-7621

2023年10月度 J. フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	10月度	下期累計	10月度	下期累計
百貨店事業	10.5	11.9	13.6	15.5
SC事業	5.2	9.0	13.4	18.1
デベロッパー事業	20.1	29.1	22.4	32.0
決済・金融事業	▲ 8.6	▲ 7.3	▲ 8.6	▲ 7.3
その他	▲ 15.5	▲ 11.2	▲ 15.3	▲ 11.1
連結合計	5.2	9.5	12.6	15.7

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

- 10月度の売上高は、休日が対前年▲1日であったことや、気温が平年より高く推移したことによる秋冬物衣料品へのマイナス影響があったものの、ラグジュアリーブランド、化粧品、宝飾品が引き続き好調を維持し、訪日外国人売上も大きく伸長したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年14.4%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同13.6%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年236.3%増(客数同574.0%増、客単価同▲50.1%減)となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年5.6%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の11月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、月初の高気温の影響によりコートなど冬物ファッションの動きが鈍いものの、訪日外国人売上が大きく伸長し、化粧品、ラグジュアリーブランドも好調に推移していることなどから、14日までの累計で対前年4.0%増(対2019年度15.1%増、対2018年度3.2%増)、国内売上高は同▲2.6%減(対2019年度13.8%増、対2018年度1.9%増)で推移している。免税売上高は対前年150.0%増(対2019年度27.5%増、対2018年度15.0%増)で推移している。

2) SC事業

- 10月度のテナント取扱高は、各店で開催のアート企画による集客効果、訪日外国人客の増加などの影響により、全店舗計(既存店)で対前年18.4%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J.フロント建装が、ホテル内装工事の好調持続により増収となり、パルコスペースシステムズも増収となったことから、全体でも増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、ポイント費の増加、年会費の減少などによって減収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、電子部品、自動車部品の不振により減収となり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2023年10月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	10月度		下期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	43.9	43.8	48.9	53.8
大丸 梅田店	7.7	17.6	11.5	26.3
大丸 東京店	17.3	15.2	21.5	19.6
大丸 京都店	18.9	8.0	18.6	8.5
大丸 神戸店	9.3	9.1	10.9	11.6
大丸 須磨店	▲0.4	▲3.4	0.4	▲1.6
大丸 芦屋店	1.6	4.9	0.2	4.1
大丸 札幌店	18.5	4.9	16.2	10.4
大丸 下関店	▲13.2	▲9.5	▲7.4	▲2.2
松坂屋 名古屋店	8.8	4.3	9.0	9.2
松坂屋 上野店	5.0	19.2	7.4	25.3
松坂屋 静岡店	▲4.5	6.3	▲0.0	9.1
松坂屋 高槻店	▲1.6	5.1	▲0.0	9.7
店 計	14.9	12.8	16.8	17.9
法人・本社等	▲1.0	-	▲6.8	-
大丸松坂屋百貨店合計	14.4	12.8	15.8	17.9
うち商品売上高	14.1	-	15.6	-
うち不動産賃貸収入	23.0	-	22.6	-
博多大丸	6.8	4.1	14.1	10.1
高知大丸	▲0.2	▲8.0	▲0.4	▲4.7
百貨店事業合計	13.6	12.1	15.5	17.2

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	10月度	下期累計
紳士服・洋品	▲11.0	▲13.5
婦人服・洋品	22.9	25.3
子供服・洋品	4.3	5.8
その他の衣料品	▲2.8	▲1.7
衣料品計	17.1	19.2
身 回 品	10.3	12.9
化粧品	29.0	28.9
美術・宝飾・貴金属	22.3	17.3
その他雑貨	▲0.2	0.0
雑 貨 計	23.6	20.9
家具	▲20.0	▲9.6
家電	▲5.1	8.1
その他の家庭用品	16.8	13.2
家庭用品計	6.2	7.1
生 鮮	2.6	5.7
菓 子	8.8	11.3
惣 菜	4.6	7.2
その他食料品	▲7.4	▲6.6
食料品計	3.7	6.0
食堂・喫茶	14.6	20.1
サービス	4.3	12.2
そ の 他	▲22.1	▲15.1
合 計	14.1	15.6

3. 営業概況

- 婦人服・洋品は、平年より気温が高い日が続いたことにより秋冬物衣料品の動きが鈍かったが、ラグジュアリーブランドが売上を牽引した。紳士服・洋品は、ジャケット、パンツ、シャツなどが好調に推移したが、コートなどの防寒衣料が不調であったことや品番移管の影響により、対前年マイナスとなった。身回品では、アクセサリや旅行用品が好調を持続した。雑貨では、インバウンド需要に加え、乾燥対策による保湿系の商品が動いたことなどにより、化粧品が大きく売上を伸ばした。食料品では菓子が好調を持続したほか、外食需要の増加などにより食堂・喫茶の売上が伸長した。

2023年10月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	10月度	下期累計
札幌PARCO	29.9	30.5
仙台PARCO	11.8	9.6
新所沢PARCO	▲10.5	▲9.8
浦和PARCO	4.5	6.0
池袋PARCO	4.3	9.0
PARCO_ya上野	37.4	33.3
ひばりが丘PARCO	7.0	5.4
吉祥寺PARCO	15.0	20.7
渋谷PARCO	67.9	70.6
錦糸町PARCO	14.7	18.9
調布PARCO	5.5	6.5
松本PARCO	6.5	5.4
静岡PARCO	▲8.4	▲6.2
名古屋PARCO	13.8	28.3
心齋橋PARCO	53.7	60.9
広島PARCO	9.4	11.4
福岡PARCO	13.8	26.4
全店計	14.1	18.2
既存店計	18.4	22.6

※注) 1. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 既存店計には、津田沼PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	10月度	下期累計
衣料品	4.8	6.9
身回品	18.1	19.0
雑貨	26.2	31.0
食品	0.8	1.1
飲食	8.0	14.6
その他	32.5	43.5
合計	14.1	18.2

3. 営業概況

- ・ 10月度のテナント取扱高は、各店で開催のアート企画による集客効果、訪日外国人客の増加などの影響により、全店舗計(既存店)で対前年18.4%増となった。
- ・ アイテム別取扱高では、好調に伸長している旅行などのサービスを含む「その他」が対前年32.5%増、訪日外国人客の需要が高いバッグなどの身回品が同18.1%増となった。